

SegV 例外

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[リロードの原因の特定](#)

[SegV 例外の原因](#)

[トラブルシューティング](#)

[TAC のサービス リクエストをオープンする場合に収集しておく情報](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、ルータのセグメンテーション違反 (SegV) 例外とそのトラブルシューティングについて説明します。このドキュメントを読む前に、「[トラブルシューティング：ルータのクラッシュ](#)」を読むことをお勧めします。

前提条件

要件

このドキュメントに関しては個別の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- すべての Cisco IOS[®] ソフトウェア バージョン
- Cisco 1700 シリーズ ルータ
- Cisco 2600 シリーズ ルータ
- Cisco 3600 シリーズ ルータ
- Cisco 3700 シリーズ ルータ
- Cisco 4500 シリーズ ルータ
- Cisco 4700 シリーズ ルータ
- Cisco AS5300 シリーズ ルータ
- Cisco MC3810 シリーズ ルータ
- Cisco 7200 シリーズ ルータ
- Cisco 7500 シリーズ ルータ

注: このドキュメントは、Cisco Catalyst スイッチまたは MGX プラットフォームには適用されません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、事前にすべてのコマンドによる潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

リロードの原因の特定

ルータの電源再投入や手動でのリロードを行っていないければ、`show version` コマンドでは次の出力が表示されます。

```
Router uptime is 2 days, 3 hours, 5 minutes
System restarted by error - a SegV exception, PC 0x80245F7C
System image file is "flash:c2600-js-mz.120-9.bin"
```

または

```
Router uptime is 11 hours, 38 minutes
System returned to ROM by error - a SegV exception, PC 0x80249B0C
System image file is "flash:c2600-is-mz.121-1.5.bin"
```

また、コンソール ログに次のメッセージが出力される場合もあります。

```
Router uptime is 11 hours, 38 minutes
System returned to ROM by error - a SegV exception, PC 0x80249B0C
System image file is "flash:c2600-is-mz.121-1.5.bin"
```

Ciscoデバイスからの `show version` コマンドの出力がある場合、潜在的な問題および修正を表示するのに [Cisco CLI アナライザ](#)を使用できます。 [Cisco CLI アナライザ](#)を使用するために、[登録ユーザ](#)である必要があります。ログオンされ、JavaScript を有効にしてもらいます。

SegV 例外の原因

SegV 例外は、常にソフトウェアの問題です。SegV 例外の原因として、次のようなさまざまなソフトウェアの問題が考えられます。

- 無効なメモリアドレスへのアクセス
- 読み取り専用メモリ領域への書き込みアクセス
- 無効な PC (0x0 の場合が多い) へのジャンプ

トラブルシューティング

手動で SegV 例外以来のルータをリロードしなかったし、またはパワーサイクルを行わない場合、Cisco CLI アナライザ ツールと一致する既知 バグID を探すことができます。

Ciscoデバイスからの **show stacks** コマンドの出力がある場合、潜在的な問題および修正を表示するのに [Cisco CLI アナライザ](#)を使用できます。 [Cisco CLI アナライザ](#)を使用するために[登録ユーザ](#)である必要がありログオンされ、JavaScript を有効にしてもらいます。

show stacks コマンドからのデコード出力が既知のソフトウェア バグと一致する場合は、SegV 例外の原因である可能性が最も高いソフトウェア バグのバグ ID が送信されます。バグ ID のハイパーリンクをクリックすると、[Cisco Bug Toolkit](#) ([登録ユーザ専用](#)) からのバグ詳細情報が表示されます。この情報は、バグ ID が一致しているかどうかの判別に役立ちます。一致するバグ ID が特定されたら、「fixed in」フィールドを参照して、そのバグの修正を含む最初の Cisco IOS ソフトウェア バージョンを確認します。

一致するバグ ID、または問題の修正を含む Cisco IOS ソフトウェア バージョンが不明な場合は、Cisco IOS ソフトウェアをリリース群の最新バージョンにアップグレードするという選択肢もあります。最新バージョンには通常、数多くのバグの修正が含まれているため、多くの場合これで問題が解決します。

[TAC のサービス リクエストをオープンする場合に収集しておく情報](#)

上記のトラブルシューティング手順を実行した後も、依然としてサポートが必要であり、Cisco テクニカルサポートを必ず提供してください。

- サービス リクエストをオープンする前に実行したトラブルシューティング手順。
- **show technical-support** の出力 (可能な場合はイネーブル モードの)
- **show log** の出力、またはコンソールのキャプチャ (可能な場合)
- [crashinfo ファイル](#) (存在し、**show technical-support** 出力に含まれていない場合)

情報をサービス リクエストにアップロードするには、[TAC Service Request Tool](#) ([登録ユーザ専用](#)) を電子メールへの添付で、attach@cisco.com に情報を送信できます。この場合は、メッセージの件名 (Subject) を **SegV** とします。
注: 問題の根本原因を特定するのに必要な重要情報が失われる可能性があるため、SegV 例外のトラブルシューティングによるルータのリロードや電源の再投入などの操作は実行しないようにしてください。

関連情報

- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)